



＜連載(110)＞

ギリシャのカーフェリー 「N.カザントザキス」乗船記



大阪府立大学海洋システム工学科教授

池田良穂

【昨年】 10月末にギリシアのクレタ島で船の復原性に関するワークショップが開かれた。筆者は同会議の実行委員であったこともあり、参加することになった。クレタ島には立派な空港もあり、飛行機で行くこともできたが、せっかくの機会なのでぜひともギリシア本島からの長距離カーフェリーに乗船してみたいと考えていた。

同航路には、日本の夜行フェリーと同様に、夕刻に出港して翌朝到着のカーフェリーが就航している。船会社では、ミノアン・ラインとアネック・ラインの2社あり、計4隻の大型カーフェリーがサービスしている。この4隻がすべて元日本の長距離カーフェリーであるから、日本を出発する前にどの船に乗船するか大いに迷った。いずれの会社も、インターネットにホームページを開いていて、出港時刻、料金などが日本からも簡単に情報が入手できるのは有難い。その上、インターネットを利用して予約もできるようになっているから、日本のカーフェリー

会社に比べるとかなり進んでいるのではなからうか。

【さて】 アテネ空港に到着した筆者は、アテネの外港であるピレウス港にタクシーで真っすぐ向かった。ギリシアでは珍しいほど土砂降りの雨で、路面も各所で浸水状態となっている。ピレウス港に着いた後も、スコールが時々やってきて、港内の船の撮影もままならない。それでも、ピレウス港での客船の写真撮影は、筆者にとって欠かすことのできない大事な仕事(?)であるから、雨の中ミノアンラインの高速客船や岸壁に停泊する大型カーフェリーなどの写真を撮影して回った。その後、ミノアンラインのフェリーが停泊する岸壁の横にあるレストランに逃げ込んだ。ここで濡れた体を拭き、ビールと軽い食事をしてようやくひと心地ついた。筆者の予約するミノアン・ラインの「N.カザントザキス」の出港時間まではまだ3時間余りある。

6時半に埠頭で船仲間の梅田さんと合流。い



左から「N.カザントザキス」「エル・グレコ」「レシムノン」



N.カザントザキスのセルフサービス・レストラン

よいよ「N.カザントザキス」に乗船する。この船は、もと日本沿海フェリー（現ブルーハイウェイライン）の東京～苫小牧航路に就航していた「しれとこ丸」である。船尾のランプから車両甲板に乗船して、そこから長い階段を上って、船内のフロントへ向かう。重いトランクを持っての乗船だったので、結構つらい。

ロビーにあるフロントの前では、たくさんのボーイが並んでおり、チェックインした乗客の荷物をキャビンまで運んでくれる。部屋はインサイドの2段ベッドの部屋で、料金は10500ドラクマ+シングルユース分としてその50%。邦貨で合計約7000円ほどであった。

キャビンに荷物を置いた後、船内の見学を開始。内部は徹底的に改装されていて、日本にいた頃に比べると考えられないほどグレードアップとなっている。さすがに乗客の数が多いだけはある。レストランもセルフサービス式のもの、本格的なサービスのあるものの2つが用意され、いずれも結構な大きさと、かつ内装や調度品のグレードも高い。またラウンジもかなり大きなものが2つある。最上階のラウンジは

ボーイのサービスがあり、各種の飲み物が用意されている。こちらのラウンジの入口には船員がたっており、荷物を持ったデッキパッセンジャーは入れないようにしている。下のデッキにあるラウンジには、セルフサービス式のバーがある。このラウンジには、デッキパッセンジャーが荷物も持って入ることができ、一晩過ごすことができるシステムとなっている。

19時15分の出港予定であったが、30分ほど遅れで船はピレウス港を出発し、クレタ島のイラクリオンに向かった。2つのラウンジの中では、結構な数の乗客がそれぞれに楽しんでいる。このラウンジの混み具合からすると、シーズンオフにもかかわらず乗船客の数は少なくないようだ。上の高級ラウンジで食前酒を飲んだ後、クレタ島での会議に出席する日本人4人とともにアラカルト・レストランで食事をする。料金も手ごろなためか、レストランにも客が多い。ギリシア料理を中心にしたメニューである。

夜が更けるにつれて、船の運動がやや大きく

なる。縦揺れはあまり感じられないが、横揺れが大きい。冬場のエーゲ海は結構荒れるので、エーゲ海クルーズも10月には終わるという理由が実感できる揺れであった。

この日の夜24時に、ヨーロッパではサマータイムが終わる。このため、この日の航海だけ、夜は1時間だけゆっくりと走って、いつもと同じ時間に港に着く。乗客にとっては、1時間だけゆっくりと寝られるわけである。

翌朝6時15分、船は定刻通りにイラクリオンの港に着いた。外はまだ真っ暗。気温も意外に低い。本船のすぐ後ろには、アネック・ラインの大型カーフェリーが続いており、客室の明りが眩しく輝いている。

イラクリオンの港では、元関西汽船の「さんふらわあ7」をはじめ、たくさんの元日本の内航客船に出会うことができた。



性能・実績で先端をゆく

もやい索発射器は

コスモ・GV, GE型

(バルブ式で操作は簡単)

製造元 / みずの機工有限会社

〒650 神戸市中央区江戸町101番地(三共生興スカイビル208号)
TEL 078(392)8690 FAX 078(321)1030

MODEL・コスモGE型